

平成21年度 学校自己評価システムシート（県立所沢高等学校）

目指す学校像	1 学力を高め、進路希望を実現する学校 2 自主性を養い、自立的態度を育む学校 3 地域から信頼される学校 上記を達成し、世界で活躍する人材を育成する。
重点目標	1 学力を充実させ、希望に沿った進路の実現をはかる。 2 学校行事や生徒会活動・部活動等の充実をはかる。 3 開かれた学校づくりをすすめる。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	2名
	事務局（教職員）	8名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価（2月1日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	授業日数と授業時数を確保して生徒の学力を高めるため、平成19年度より土曜日公開授業を実施しています。また、チャイム着席や机上に不必要な物を置かせないなど、生徒の規律ある授業態度の育成にも努めています。さらに、生徒による授業アンケートを通じて、教員の授業の質の向上を図るなど、学力向上に向けて全教員が取り組んでいます。 一方、生徒の家庭学習時間について、その時間の確保と内容の充実が喫緊の課題です。	生徒一人一人の進路希望を実現するための学力を向上させる	①生徒による授業アンケートの活用と相互の授業見学を通じて、教員一人一人の授業力を高めます。 ②学力向上プロジェクトチームを活用し、家庭学習の時間の確保と質の向上に努めます。 ③遅刻防止等、学力向上の根本である基本的生活習慣の確立に努めます。	①生徒による授業アンケート結果が前年に比較して向上したか。 ①教員相互の授業見学数は増えたか。 ②生徒の家庭学習の時間は増えたか。 ③遅刻者の数は減少したか。	①授業アンケートの結果では、各学年で「進む速さがちょうど良い」は7.8～11%、「口頭の説明は分かりやすい」が9～13%、「板書・資料は分かりやすい」が6.3～11%、「満足できる」が7.4～9.8%それぞれ向上しました。 ①授業見学週間に見学した教員は12名、公開授業を見学した教員は26名であり、増加しました。 ②スタディサポートの結果によると、昨年同時期より1学年15分、2学年9分、平日の家庭学習時間が増加しています。 ③遅刻者の数は昨年度より約30%減少し、始業間近には遅れないよう走る生徒が増えました。	A ①「口頭の説明は分かりにくい」、「板書・資料は分かりにくい」、「満足できない」の割合を10%以下にします。 ①ワークショップ形式の学力向上研修会は好評でした。今後、さらに多くの教員が授業見学できる方法を検討します。 ②平日、ほとんど学習をしていない生徒（1学年35.8%、2学年34.6%）の減少をめざします。 ③基本的生活習慣を身に付けることの大切さを粘り強く伝え、更に遅刻者を減らして行きます。
1	生徒は、ほぼ全員が、4年制大学を中心とした上級学校への進学を希望しています。そのため、3年間を見通した進路ガイダンスを行っています。今年もガイダンスの冊子を作成し、より効果的に進路希望の実現に向けて取り組みます。 一方、生徒一人一人の進路希望に沿った進路指導や保護者に対しても進路情報の適切な提供を行うことが課題です。	生徒一人一人の進路希望に沿った進路指導を行う	①面談を重視し、一人一人へのきめ細かい進路指導を行います。 ②学力向上のため、組織的な補習の実施に努めます。 ③スタディサポートや模擬試験の結果を一元的に管理し、予備校に頼らない進路指導を構築します。 ④保護者ガイダンス等を通じ、保護者への適切な情報提供に努めます。	①、③、④ 上位大学の合格割合等、進路結果はどうであったか。 ②補習参加者の満足度はどうか。	①担任・生徒の個別面談は3者面談を含め3～4回実施できました。 ②3学年の補習参加生徒数は179名（54.6%）延べ423名。全体の講座数は73から85講座へ増加。実施された補習全てが進路アンケートの中に、満足度の高かった補習として記載されていました。 ③スタディサポート・模擬試験の結果返却を確実に行うとともに、面談にも活用させることができました。センター参加者199名（昨年144名）が示すように、学校主導の進路指導が浸透してきていると考えられます。 ④保護者ガイダンスを各学年2回は実施し、各回とも3分の1以上の参加を得ました。	A ①～④ ファインシステムの有効活用を模索するとともに、職員全体、特に担任が生徒に対する進路指導に活かせる工夫を行います。
2	自主・自立の校風の下、生徒は部活動や委員会、学校行事等の特別活動において、積極的に活動しています。 一方、学習との両立をどう図るか、委員会や学校行事においては、生徒間の話し合いを活性化し、生徒全体の意識をどう高めるか、また、自分たちの視点からだけの活動ではなく、どう社会性を育んでいくかが課題です。	特別活動をととして生徒の自主性と社会性を育む	①体育祭や文化祭等の学校行事における分かりやすい情報の発信を工夫し、共通理解を深め、教職員及び生徒全体の参加意識を高めるとともに、事後アンケートの結果を迅速にフィードバックします。 ②学校行事において、他者の視点を取り入れて企画運営をするために、来場者アンケートを活用します。 ③生徒と教員が協力して学校をよくするため、両者の話し合いの場である「定例連絡会議」を活性化します。 ④部活動加入率を高め生徒の社会性や仲間との協働の力を養います。	①、②学校行事についてのアンケートにおいて、生徒自身の参加意識が高まったか。また、来場者の満足度はどうであったか。 ③「定例連絡会議」を学期に1回以上開催できたか。また、参加者の人数はどうか。 ④部活動加入率はどうか。	①体育祭、文化祭事後アンケートではともに7割以上の生徒が「良かった」と回答、「伝統の重み・団結力・協働性」等を学んだとの回答からも、参加意識の向上には大きな成果が認められました。 ②体育祭の来場者からは競技・応援等に7～8割の「良い」との回答を得ました。進行面でも改善されました。文化祭の来場者数も前年より千人近く増え好評を得ることができました。 ③毎学期の開催は完全には達成できませんでしたが、参加者数は回を追って増え、熱心な討論がなされました。 ④1学期の調査では、全体で兼部を含め95%の加入率となっています	B ①行事のさらなる充実を目指して、生徒の主体的な取組をサポートしていきます。体育祭での競技・応援のバランスの改善やより独創性ある内容を考えていくこと、文化祭のさらなる質的向上等が課題です。 ②引き続き外部の声にも丁寧に耳を傾け、保護者のみならず地域に支持され、応援していただけるような行事の創造を目指します。 ③より計画性を持って開催回数を確保し、テーマも十分検討し、内容の充実を図ります。 ④1年生には学期が進むと実質的に活動をしなくなる生徒もいます。高い加入率を保てるよう取り組みます。
3	授業公開、学校説明会、中学校校訪問、PTA活動、学校評議員制度や学校評価懇話会等を通じ、積極的に学校情報を外部に発信し、本校への理解を高めています。	開かれた学校づくりを推進する	①公開授業や学校説明会、また公開講座を通じて、在校生保護者や中学生及びその保護者、また地域の方に本校の良さを十分に伝えます。 ②小中学校等との連携を深め、地域に本校の教育力を還元します。	①学校説明会、公開授業等の満足度はどうか。 ②小中学校等との連携における校数や参加生徒数はどうか。	①参加者数は33%アップとなり2年連続で増加し、参加者の大半が満足しているとの回答を得ました。 ②所高 KIZUNA 活動として、多くの部活等を通じての地域の施設や学校との交流や、中学生への勉強指導・高校生サイエンスフェア、小学校での「小学生サイエンスクラブ」等、全部で8回実施することができました。	A ①次年度も内容を工夫し、さらに満足度が高まるよう改善していきます。 ②次年度も引き続き多くの小・中学生や地域の方々との交流がさらに深められるよう計画をしていきます。

学校関係者評価	
実施日	平成22年2月27日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
全般に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通してしっかりと取組を行い、冷静に評価して次につなげようとする姿勢が見られる。 ・生徒として学校や地域の委員の方たちがこれほど我々のことを考えてくれてうれしい。頑張らねばと思う。 ③遅刻は学習環境に影響を与えるのではなくさなくてはいけない。基本的生活習慣の確立は学力向上の基礎である。挨拶も重要であり、それにより安全・安心の環境が作られていく。
①～③学力向上プロジェクトチームは、所高らしい取組である。今後も継続して行い、進路実績につながると良い。	
①～④	<ul style="list-style-type: none"> ・達成度がBとなっているが、生徒一人一人の取組の現状を考えると課題は多い。委員会等で一部の生徒に負担が集中する傾向にあるので、皆で負担を分け合うようにする、やる気のある仲間を増やしていく手立てが必要である。 ・中学時代に活躍した生徒が多いはずなのに、その力を発揮していない場合が多い。 ・体育祭や所高祭において頑張った先輩の姿を見て、後輩があありたいという気持ちを持つことが大切である。
①土曜日公開授業については、開かれた学校作りの観点から地域への公開を進めて欲しい。一人の生徒の言動が学校の評価を左右するように、地域の方が目をかけてくれると学校にとって大きな味方になる。	
②所高 KIZUNA 活動は、たくさんの方々の学校とつながり、所高生が学んだことを生かすことの出来るとても良い取組である。	

